

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072800293		
法人名	医療法人 原会		
事業所名	グループホーム 旭ヶ丘		
所在地	伊勢崎市間野谷町135-1		
自己評価作成日	平成22年10月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成22年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは田畑が広がるのどかな環境の中にあります。3ユニット27名が生活しており、それぞれのユニットが交流できるようになっております。利用者と家族の交流を大切にするため、年間行事は家族も参加できるように計画を立て、にぎやかで楽しい時間を過ごせるように工夫しています。研修会や勉強会は年間計画を立て、職員全員が参加できるように取り組み、職員一人ひとりが年間目標を立て質の高い介護の提供を目指しています。老人保健施設が隣接しているため様々な委員会があり、専門職と意見交換しながらリスク対策やサービス向上に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3ユニットとも木造でできたデッキへ自由に出入りができ、共有スペース・各居室には窓から太陽の光が十分に差し込むようになっており、開放的で居心地の良い環境を提供しているホームである。きり絵や卵の殻を利用するはり絵などの作品は、市の文化祭や祭りに出展するために、併設の老人保健施設と交流しながら作成に取り組んでいる。運動会で劇をしたりバイキングや飲酒会なども企画して利用者・家族と一緒に楽しめるよう工夫したり、利用者・家族の意見を把握するために、年1回は無記名でアンケートも実施している。また、利用者の発言そのままを生かした苦情・事故報告書を丹念に作成し、現場職員・法人管理者も含めて対応を検討している。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスとしての理念を職員間で話し合い、つくりあげた。運営方針や理念についての勉強会を行ない理念を共有している。各ユニットや玄関、事務所内にも理念を掲示し、それに基づき実践できるように努めている。	「高齢者の尊厳を大切にしながら、地域の中で生活する」という理念は、新入職員研修や介護計画作成時にも共有し合い、日々意識して取り組むようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し交流している。また、外食や買い物などはできる限り地元に出向している。	地域の祭りの時には、ホームの敷地内に神輿が立ち寄ってくれたり、ホームで作成した作品を七夕祭りや文化祭に出展している。運動会などの行事には地域住民も参加してくれる。傾聴ボランティアも来所している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れを行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や事故、苦情の報告と取り組みについて報告し、意見交換している。また、出席者には行事に参加していただいたり、ご意見をサービスに取り入れている。	運営推進会議は、法人が作成した会則に従い2カ月ごとに老人保健施設の相談室で開催している。区長・民生委員・地域包括支援センターの職員・ホーム関係者が参加している。新聞で家族にも参加を呼び掛けているが、1名のみとなっている。	家族に会議の内容を知らせることで家族の参加や意見を反映させたり、利用者も気軽に参加できるようにホーム内で開催することを検討してほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の研修会への参加や介護相談員を受け入れ、意見交換をしている。また、市の行事には積極的に参加するように努めている。	行政の窓口には、管理者や行事担当者も出向くようにしている。事故報告書の提出や研修会に参加し関わりを持つように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護や身体拘束に関する研修会を実施し、職員全員が理解できるように取り組んでいる。また、昼間は玄関を施錠せず、外出しそうな利用者には引き止めるのではなく、声をかけ一緒にいていくようにしている。	身体拘束については研修会で取り上げ、職員は理解するよう努めている。ユニット間の交流は自由にでき、玄関・庭の門扉も昼間は施錠していない。外出したいときには、見守りや同伴で対応するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月虐待についての勉強会で意見交換を行い、職員一人ひとりが認識できるように学んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年権利擁護についての研修会が計画されており、職員全員が理解を深めるように学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前および入居時に契約書や重要事項説明書を用いて退居を含めた説明をしている。新たに入居時リスク説明書を作成し、入居後のリスクについての説明も行なっている。その際心配事や疑問点を確認し、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者及び家族にアンケートを実施し、ご意見や要望を職員間で話し合い、サービス向上に取り組んでいる。また、ご意見箱の設置や苦情報告も同様に職員間で話し合い、反映させている。	利用者・家族が気兼ねなく意見が出せるようアンケートや報告書の作成に力を入れている。特に苦情・事故報告書では利用所の訴えを言葉通りに取り上げ、管理部も現場職員と一緒に把握・検討して対応策を立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の変更や年間の部門目標などは職員間で話し合い決めている。	全体会議やカンファレンスで職員は意見交換をしている。業務の流れなどは現場で話し合い、予算や業務体制については管理部へ相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ職員個々の努力や実績、勤務状態を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、施設研修会やホーム内勉強会を行い人材育成に取り組んでいる。外部研修に参加した職員は全員が知識を共有できるように研修内容を報告したり、日々の取り組みを事例として発表する機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム大会や見学研修などを通じ交流している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には生活状態を把握するためできる限り本人と面談し、不安なことや要望について話を聞く機会をつくり、安心してサービスを利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時には家族と話し合う機会を設け、家族の思いや要望をゆっくり聞き、希望にそえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人や家族の思い状況を確認し、必要な支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	習字、俳句、家事など得意な事で力を発揮する場面をつくっている。人生の先輩として教えていただくことも多く、感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間行事は家族も参加し、一緒に楽しめる機会をつくっている。また、日常の様子は定期的に報告し、必要な時には相談しながら関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに入居しても手紙や電話のやり取りが継続できるように援助している。また、隣接している老人保健施設に移られた方や通所リハビリに通われている友人、知人、家族に会いに行くなど、関係が途切れないように努めている。	知り合いへ年賀状や手紙を書く時には支援している。併設の老人保健施設やデイサービス利用者との交流を希望する人には会いに行ったり、家族に協力してもらって懐かしい場所に連れて行ってもらうなど関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶や食事の時間は職員も一緒に関わり、会話が弾むように働きかけている。利用者同士が良好な関係を築けるようにレクリエーションやコミュニケーションの調整役となっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方には必要に応じて情報提供し、利用者と一緒に会いに行ったりもしている。家族の相談も必要に応じてうけている。また、家族にも「必要があれば相談してください」と話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりのなかで担当職員が中心となり、本人の思いや希望の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は家族から情報を得て職員間で話し合っている。	担当職員が中心になって利用者の意見や苦情を聞き、家族からも情報を聞いてモニタリングに生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の相談で生活歴や暮らしぶりを把握し、本人の習慣や趣味が継続できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態や1日の過ごし方など記録に残し、職員全員が把握できるようにしている。また、日課は決まっているが本人のペースに合わせて働きかけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに担当職員が決まっており、担当者が中心となって本人や家族、職員と話し合い、ケアプラン作成に反映している。職員全体でアセスメントやモニタリングを行い本人の思いや希望含め、カンファレンスで意見交換している。	担当職員を中心に本人・家族の意見を把握し、カンファレンスを行って介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、3カ月ごと又は必要に応じて計画は見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分摂取量、本人の様子、排泄について毎日個人記録に残している。また、勤務の交代時間には申し送り、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内に病院、診療所、老人保健施設、高齢者複合施設があり、利用者の変化や要望に応じて他サービスにつなげることができる。また、他職種と連携し、必要なサービスを提供することもできる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には地域住民や包括支援センターの職員、児童民生委員が参加し、情報交換や行事参加などで協力関係を築いている。年に2回消防署の協力で避難訓練も行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。基本的には家族同行の受診となっているが、急変時や緊急時は職員が対応している。家族の都合などで職員が受診の対応をすることもある。また、必要な時はかかりつけ医に訪問診療に来てもらうこともあり	27名中3名は入所前からのかかりつけ医の受診を継続している。本人・家族の了解のもと、法人の診療所医師が2週間に1度往診し、薬も処方している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、利用者の健康状態や状態の変化に応じた支援を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーなどで医療機関に情報を提供し、入院中も退院後の支援方法等について相談しながら協力関係を結んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、重要事項説明書を用いて事業所でできることを入居前と入居後は定期的に家族に説明している。	重要事項説明書に重度化や終末期に向けた方針を明記し、方針に沿って説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応についてはマニュアルがあり、施設研修会やホーム内の勉強会で定期的に訓練を実施している。また、新入職者には急変時や事故発生時すぐ対応できるように看護師が個別に指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署に協力してもらい年に2回避難訓練、消火訓練、通報訓練を実施している。また、運営推進会議で地域住民にも参加や協力をお願いしている。	グループ合同での訓練も含め年2回消防署に協力してもらい、昼・夜を想定した消防訓練を実施している。館内の防災チェックは毎月行っている。訓練に区長・民生委員は参加している。近隣に訓練実施の案内を出しているが住民の参加はない。	職員が避難誘導をスムーズに行えるよう、避難経路や手順の確認も含めた自主訓練の実施と災害に備えた物品の備蓄も検討してほしい。地域の協力は引き続き働きかけていただきたい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応についての目標を毎月職員間で話し合い達成できるよう取り組んでいる。また、目標が達成できたか職員一人ひとりが確認し、改善に向けて話し合っている。	利用者の対応に関して毎月目標を設け取り組んでいる。職員は振り返りを行い、改善するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な利用者には外食のメニューやバイキングなど複数の選択肢から自己決定できる場面を作っている。また、職員のいけんを押し付けないように、本人が決定しやすい働きかけするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた対応を心がけている。1日の流れはあるが、利用者が自由に参加・不参加を決め過ごしてもらっている。入浴はトラブル防止のため順番を決めているが、基本的にはできる限り希望に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出時は化粧や洋服などおしゃれを楽しんでもらえるように支援している。また、理・美容サービスも髪型など自分で希望を話し、好きなヘアスタイルにもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事についてのアンケートを実施し、利用者の好みを参考に旬の食材や季節のメニュー、行事食(クリスマス、誕生日、晩酌会、バイキングなど)など食事が楽しめるように工夫している。また、職員と利用者が協力しながら食事の準備や後片付けを行なっている。	担当職員は毎月会議を開いて献立を立てている。アンケートを取りながら季節の料理や好みのメニューも取り入れている。予算に応じて果物バイキングや晩酌会も開いている。利用者も職員と一緒に準備・片づけ・食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取状況を把握し、記録に残している。管理栄養士にアドバイスをもらいながら食形態や栄養バランスに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、清潔が保てるように歯磨きの声かけを行なっている。必要に応じて声かけの工夫や見守り、介助を行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、行きたい時にトイレに行き、排泄できるように援助している。失敗した時は羞恥心に配慮し、対応するように心がけている。	各個人の排泄状況をチェックし、それぞれに応じた声かけや誘導を行っている。夜間のオムツ使用については、家族と相談している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操、散歩などの運動と水分補給を働きかけている。繊維質の多い食材は食べやすいように工夫したり、ジュースにして提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴順についてのトラブル防止のためにその日の順番を決めている。本人の希望になるべく浴うようにしているが時間帯によっては本人の希望に沿えないこともある。利用者の希望で同姓の職員が介助を行う場合もある。	各ユニットごとに家庭用浴槽が2台づつあり、1日3～4名が毎日入浴できるよう支援している。希望者は同性の介助にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安心して眠れるように日中は活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また個々の体調や習慣を考慮し、休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの内服薬と副作用、用法について、いつでも確認できるようになっている。症状や体調が変化したときには記録に残し、医師に相談している。内服は飲み込むまで職員が確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で力を発揮できるように、俳句が得意な方には広報誌やホーム新聞に載せ、習字が得意な方には指導をお願いし、家事が得意な方にはお手伝いしてもらおうなど張り合いのある生活ができるように努めている。また、必ず感謝の気持ちを伝えるようにして		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花の見物、外食、買い物など地域に外出する機会をつくっている。また、庭にベンチを置き、外に出たい利用者には職員が付き添い外に出ている。	玄関前の庭のプランターで花を育てたり、ベンチで日光浴や休憩ができる。日頃から散歩に出かけたり老人保健施設へ訪問したりしている。外食や買い物にも出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望の応じて、家族と相談しながら小額を自己管理している利用者もいる。お金を持っていない利用者も自分で支払いをする機会をつくり、援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話や手紙、年賀状などのやり取りを支援している。また、利用者の希望で職員が代筆し、返事を出すこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間はテレビを囲むようにソファを置き、利用者がテレビを見ながらくつろぐ場所となっている。玄関フロアや各ユニットには、飾り(雛飾り、七夕飾り、納涼祭、十五夜、文化祭、クリスマスなど)で季節感を取り入れている。	行き来が自由な居間と木製デッキの間は、全面ガラス戸になっており開放的である。地域の祭りに出展した利用者の作品や季節の飾りも掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関フロアにイスを置き、他ユニット利用者との団欒や、一人で過ごせる空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や家具、写真など持ち込まれている。家具やベッドの位置なども本人と相談しながら配置している。	テレビや椅子が持ち込まれている居室もあるが、自宅からの入居者が少ないためか、持ち物を備え付けの収納家具におさめ、比較的すっきりしている居室が多い。家具の配置等は自由にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎月安全点検について職印間で話し合う機会があり、そこで出た意見をもとに安全な環境づくりに努めている。事故報告により手すりを新たに設置したり、居室の間違えには目線の位置にわかりやすい目印をつけたり工夫している。		